

[令和5年7月7日県土整備常任委員会]

◆宇野裕 委員 それでは、質問を何点かさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

まず、先ほどの部長の御挨拶の中にありました新湾岸道路についてお伺いをさせていただきたいと思います。新湾岸道路は、自民党といたしましても、本県の産業や経済発展のために大変重要な道路と認識をしているところであります。今回の自民党代表質問において答弁があったとおり、検討会準備会が開催されたとのことでありますが、早期の計画の具体化に向けて今後の進捗が大変期待されているところであります。

そこでお伺いをさせていただきたいと思います。新湾岸道路の計画の具体化に向けて、今後どのように検討が進められていくのかお伺いをいたします。

◎説明者（横田道路計画課長） 国、県、沿線市などで構成する新湾岸道路検討会準備会では、概略ルート等の検討を行うための体制やプロセスの在り方を検討することを目的としております。今後、構築した体制等により、沿線市が考える道路等に対して期待する効果や配慮すべき事項を踏まえつつ、沿線地域とコミュニケーションを図りながら概略ルートや構造の検討が進められるものと考えております。

以上でございます。

◆宇野裕 委員 ありがとうございます。要望ですが、新湾岸道路は大変重要な道路であり、引き続き早期の計画の具体化へ向けて取り組んでいただきたいと。よろしくお願ひをいたします。

次に、東京湾アクアライン関連で要望を何点かさせていただきたいと思います。東京湾アクアラインの、先ほどの御挨拶にもありました時間帯別料金の社会実験について、アクアラインの交通円滑化が図られるとともに、本県を訪れる観光客の滞在時間が延びるなど、本県の経済のさらなる活性化につながることを期待されているところでございます。

そこで要望ですが、今回の社会実験の結果についてはしっかりと調査分析、そして県民に分かりやすく公表していただきたいというふうに要望いたします。

次も要望であります。令和6年度の国の施策に対する重点提案・要望にも挙げられているように、アクアラインは4車線から6車線に拡幅が可能な構造となっているとのことであり、将来のさらなる交通需要の増加に備えた検討が必要ではないかと考えているところであります。

そこで要望であります。アクアラインの6車線化に加え、東京湾口道路の整備による交通容量の拡充方策について検討を進めてもらいたいと強く要望をいたします。

次に、この質問については同趣旨の質問、これまでもしてまいりましたが、さらに角度を変えて質問をさせていただきたいと思いますが、高速道路インターチェン

ジ等を生かした産業の受皿づくりに関連して２点ほどお伺いをさせていただきたいと思います。

１点目は、開発事業の中で、地権者の土地利活用の手法についてお伺いをさせていただきたいと思います。開発事業を実施する上で、１つの大きな課題として事業用地の確保があると認識をしているところであります。私の地元の匝瑳市においても、事業候補地を絞り、企業向けのアンケートやヒアリングを実施し計画の検討を進めるとともに、地権者の意向調査を行っているという聞いております。その中には、事業自体に賛同はするが、先祖からの土地を売却することに多少の抵抗感を持ち、また、賃貸であれば考えてもいいのではないかなというふうに考えていらっしゃる方もいるようであります。また一方で、個人での土地活用は不安であると。買手、借手を見つけにくいなどの理由でちゅうちょしているという意見もあると聞いております。事業用地の確保については地元地権者の協力が何より大切であり、できる限り地権者の意向を酌み入れることが重要ではないかなと考えているところであります。

そこでお伺いをさせていただきたいと思います。地権者が土地を手放すことなく利活用するにはどのような手法があるのか、お尋ねいたします。

◎説明者（増田都市計画課長） 都市計画課でございます。

地権者が土地を手放すことなく利活用する方法といたしましては、賃貸する方法がございます。地権者が進出企業と直接契約をし、土地を賃貸する方法ですとか、賃貸を希望する地権者の土地を集約して共同で賃貸する方法も可能であるというふうに考えてるところでございます。また、共同で賃貸する場合でございますけれども、賃貸を希望する地権者が管理会社ですとか管理組合を設立いたしまして、コンサルタントなどの専門家に企業への賃貸や管理運営を委託する、そういった例もございます。

以上です。

◆宇野裕 委員 ありがとうございます。これからも御指導よろしく願いいたします。

次に、インターチェンジ周辺では、他県の状態を含めてどのような産業の可能性があるか、お伺いをさせていただきたいと思います。埼玉県などの圏央道インターチェンジ周辺では産業が集積し、経済活動が活発となっている状況であります。千葉県においても、令和５年度中に匝瑳市まで開通予定の銚子連絡道など、広域的な幹線道路ネットワークの整備進展に伴い、インターチェンジ周辺等における産業立地のポテンシャルがますます高くなってきていると期待をしているところであります。この整備効果を地域経済の活性化や地域振興につなげるため、産業用地整備に向けた検討が沿線市町村で進められている中、匝瑳市においても候補地を絞り込んだ具体的な計画の検討を始めており、今後は企業ニーズを見極めるとともに、地域が持つ資源や魅力と融合した新たな産業拠点の創出に積極的に取り組む必要があると考えてるところでございます。

そこでお伺いをさせていただきたいと思います。千葉県のインターチェンジ周辺では、他県の状況を踏まえ、一般論としてどのような産業の可能性が考えられるのか、お尋ねいたします。

◎説明者（増田都市計画課長） 都市計画課でございます。

圏央道インター周辺、神奈川県、埼玉県、茨城県などにおける産業立地の状況でございますが、製造業、物流、商業、レジャー、医療、福祉、これらが大半を占めている状況となつてるところでございます。産業の誘致に当たりましては、そのニーズですとか将来性、社会経済の動向、地域の特色、こういったものを総合的に勘案する必要がありますので、商工労働部などの関係部局と横断的に連携しながら市町村に情報提供をするなど、今後とも支援してまいりたい、そのように考えております。

以上です。

◆宇野裕 委員 ありがとうございます。これからも引き続き支援をしてまいりたいというような御答弁、本当に心強く思っているところでございます。県においては、匝瑳市をはじめ県内市町村が検討している産業用地整備の具体化に向けて、積極的に県の有する経験やノウハウ、情報を提供するとともに、地権者の意向にも寄り添いながら、より円滑に進められるような支援をよろしくお願いをいたしまして、私の質問を終わります。

以上です。